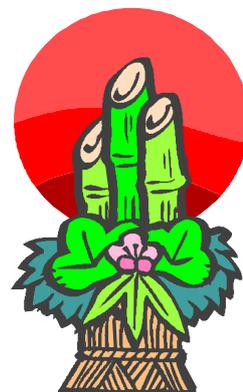


「今年の経済情勢の見通し」



1. 2011年の今年経済情勢の見通し

2010年の落ち込みの反動増や財政刺激策が一巡し、先進国を中心に世界経済は緩やかに減速していくと思われる。2011年も、先進国経済では財政緊縮による景気下押しが続くこととなろう。一方で、資源国や新興国の経済は引き続き高成長が続くことが見込まれる。

ただし、2011年の世界経済には不透明感が強い。アジアでは中国が、物価上昇率が高まってバブルや金融引き締めなどによる景気減速懸念が強まりつつある。また、ギリシャやアイルランドなどでは財政赤字問題に揺れているので、ユーロ圏諸国は、財政赤字の削減をさらに強めていくであろう。

2. 日本経済は外需の依存が今年も続く

先進国の経済減速の中で、我が国日本の経済も減速している。我が国では2010年9月のエコカー補助金終了による自動車販売急落や家電エコポイント縮小があった。さらに世界経済減速や円高も輸出の鈍化を招いている。恐らく2010年10～12月期の日本経済はマイナス成長となろう。

一方、2011年になれば、景気の好転が少しずつ見込まれると予想する。昨年末の補正予算が執行され、公共事業が増加する。中国・アジア経済もふたたび成長率を高め、輸出に好影響を与えよう。

これらの要因からすれば、2011年になれば、日本経済は再び緩やかな回復を続けることになる。しかし、厳しい国内の財政状況にあって積極的な経済対策を打つ余裕はなく、引き続き外需頼みの景気展開を余儀なくされる方向といえる。

3. 円高の影響について

価格面を通じた影響

輸出決済において為替差損、輸入決済において為替差益が発生する。輸出依存度が高い加工型製造業では収益が下がる一方で、輸入比率が高い素材型製造業、非製造業では収益が上昇となる。

数量面を通じた影響

半年から2年のラグを伴って、輸出数量を押し下げ、輸入数量を押し上げるため、純輸出を押し下げられる。

事業展開への影響

製造業を中心に、製造拠点の海外シフトが加速する結果、国内の設備投資・雇用が減少すると予想される。

4. 米国と世界の2011年の経済

昨年末のクリスマス商戦の好調で景気の上ぶれが指摘される米国経済だが、2011年は緩やかな成長に止まることとなる。確かに、株高の影響もあって米国の消費は堅調で、国民所得が回復を続けている。

また、ブッシュ減税の継続と新たな減税が行われることから、2011年の米国経済は堅調に回復すると予想する。さらに、米国の債券市場の動向に大きく左右される展開となりそうだ。2010年の12月の米国雇用統計の内容が予想より改善された。現在の米長期金利は昨年10月頭のボトムから1%程度高く、景気回復期待をかなり強く織り込んでいるとみられる。今後は楽観論が維持され、金利水準を正当化出来るかどうか重要なポイントとなる。

しかし、米国の雇用統計が、今後もしも市場の予測を大きく下回れば、楽観論に修正が入る余地もある。

また、2011年に主要国・地域がどれだけ世界経済の成長に寄与するかをみると、中国を中心としたアジアが世界経済のけん引役となる姿は明瞭になると思われる。日米ユーロ圏が世界経済成長の2~3割程度しか寄与しない中で、新興国とりわけ中国・アジア諸国の存在感は際立って大きくなる。

5. 政治に翻弄される可能性もある2011年（2011年は2012年の選挙の年の一年前）

最後に今年を位置づけるとすれば、2012年の1年前ということだ。

多くの国が2012年にトップ交代か改選に直面する。具体的には2012年3月にロシアと台湾、4月にフランス、11月に米国、12月には韓国でそれぞれ大統領選挙（台湾は総統選挙）が予定されている。

中国では2012年の秋に5年に1回の共産党全国代表大会が開催され、習近平党中央委員会常務委員が胡錦濤総書記と交代する見込みである。

どこの国でも選挙を勝ち抜くには支持率の確保が絶対条件になってくる。特に米国では過去経済が回復しなければオバマ大統領の再選はない。しかし、米国では金融財政政策を打つ余地はほとんどない。国内に解決の糸口が見つけられないとすれば、海外問題で国内支持率取りに軸足が動きそうである。



< 著者プロフィール >

乾 晴彦 (いぬい はるひこ)

< 略歴 >

CFP、1級FP技能士、DCアドバイザー、宅地建物取引主任者、証券外務員一種資格、貸金業務取扱主任者、管理業務主任者

昭和31年生まれ。

都市銀行、損害保険会社の本社課長・部店長としてコンサルティング業務(PB室)等を担当。

その後、三菱証券(現三菱UFJモルガン・スタンレー証券)の人材開発部で、FPの推進及びFP実務等の社内講師を務め、生命保険の教育責任者も担当。現在は富裕層向け相談業務、企業(主に大手金融機関と大手不動産会社)や大学でFP教育の講師をしています。

今後のメルマガをより良い物とするために下記のページより皆様のお声をお聞かせ下さい。

<http://www.nichizei.com/fp-enquete.html>

メルマガ執筆者募集のお知らせ

税理士FP実務研究会事務局では、FP実務に関する様々なテーマでメルマガの執筆をしていただける方を募集中です。分野・テーマ等は自由です。最近の相談事例や得意分野など、ぜひ寄稿ください。執筆を希望される方は、税理士FP実務研究会事務局【(株)日税ビジネスサービス 総合企画部】までご連絡ください。

TEL 03-3340-4488

